

啓
善
伺
濟

明治六年中
明治七年^{ヨリ}月 全八年十月^マ

啓
善
伺
濟

明治六年中、明治七年^{ヨリ}月 全八年十月^マ

208

營繕伺濟

明治六年中

東 京 帝 國 大 學	庶務課
部 門	
番 號	1
五十年史料	
208	

自癸酉一月十七日

營繕伺濟

至同十二月廿七日

東京大学



8 95494

教所ワクニ教養之方地境
竹島東友達方ニ係同

教所ワクニ教養之方地境
并学校書生全書ニ往來する一七條有竹矢
玉後い出た地所境界あり其地境仍之り入和
後中身其方紙に代價より出来たる中三六有
程成功より間数あり改訂養仕てより其先以
其間に限と推我かふん可為友其式を急其評改
より其地境四區お同也

全画

一月十七日

東京大学

醫學部

市省

四半

押

切

文部

書西例之通可反計事

一月十九日

省中

教師館造營之儀有願

先般同濟獨之國に條約相和れ常技理に教之學
 之及附主名獨羅西學之教師二名来着之上そ
 居館之差支るる者昨年申上野爲存虎の費と
 方お能金に今も在許のにお本館に之を名に教
 師今より六週間と必す来前了度津更何しそ亦
 族百達身は越其の各名の及費消所亦も相應し
 場所よりし其の各即今しモノ入に貸消るる館
 舎も其の三にお元は支極う校益自孤身に此ハ何
 分住居勉お能然うハ別紙因由の通口所より早に
 増建お半は係は費と亦も即今投擲中より
 決定お仕不日増減の申と概略を件より手付投

山下見録の統計金七百枚五拾五枚の計
片の足池の多量採り道安の旨至急の許可を成
採は皆外に在る也

明治六年一月廿二日

醫學學校

本省

文中

書面申出の趣金七百枚五拾五枚の計の
下成丈省略の取掛
差出奉

明治六年一月廿二日

文部省印

丹戸修條の議有願

校内丹戸校破のし汚水と混し河分難用之は
致令に墨の多量採り知原は及列紙工費潤書
多量採り知原は及列紙工費潤書

会商

第一本学区

一月二十日

醫學學校

本省

文中

進而丹戸所の議を治定當用し丹戸府早に決
許のめ事成り也

文部

書面同し通可及事

才二月二日

省印

病室台標探訪同

尚校構内之儀も生徒乃患者共入派し以て或
 患者見舞等程々有入其れは身一級生徒
 之為也一乃其且又一月七日の夜中とて通う校
 内相地生徒体操行と致れり其も面つて以て
 生徒と通門よりし寄る金前通う事と方控前
 と合所とメ切と取し入院ある患者者門し
 方より通行方解れ使仍らる別其は探訪と通
 探訪探訪と別紙と通に宜し後其は探訪と
 探訪と探訪と探訪と探訪と探訪と探訪と
 探訪と探訪と探訪と探訪と探訪と探訪と

明治六年二月十二日

東坡先生

四

差如百步

文部

省
叩

功 押

再願

明倫彙編
家範典
卷一百一十五

弟三子也

本省

四

爲以由又遊學方之衆大疑有少微分二其
 代毛傳亦仕此高下之殊何也吾以意求之
 以毛傳仕後有毛氏

書而附寢石竈之內以奉之方其用也余
因之而取斗以用之因以中主事

乾隆元年二月四日

文部

省
印

印

長官

營
張
御

別紙上野及所鑑室不設一象以許之也

順治六年三月丁丑日

本省

法中

押 切

書面例に通る所外に他方用白猪と省思を
可中主事

明治六年二月十日

文部省
省印

長官

学務掛

別紙に院生修業成績と系の許可状を
同紙に提出也

明治六年二月十日

追分早稲田大学

段南院生徒寄病舎修繕の事并
因

先般皇親上院より許可相成り醫院生徒の
弟も在席致し生徒の異こゝて常に在席
生に附属し或は専ら治療を司りて事業に授け
られ実地を補助し或は之より其の居る地
生徒に混雜せしむるは是れ不都合の甚く又万端
校南方表官舎より一歩の隙に在る故に所
るが爲に代分界おき常一校に用ひる費油出
る多し此等修繕也

明治六年二月十日

第一大學

秦省

四

書面金百に於て田五拾五匁之中一を早之
反截りて以て猪と省略し一を成功と清
養限可る也事

二月十七日

文部

省印

功 行

藥局經理之責有同

高坂の系は馬援礼の臨一時之急に元は大
病況に年引濱に學校より白屋破壁底に
姑不滿意に致し致し致し致し致し致し致し
裁に備るものとし就中當局の油を姑煉油
わく之局より種々之量に弊業より之を
光線に觸應し忌或も火逆に侵蝕し端にその
不女を所因する致し致し致し致し致し致し
公に用粘煉油を香竈をて教教に及業室直うに
光線に受く也據方と変異波に致し用之る
高に解し之に致し致し致し致し致し致し
此に自より業利に因和より粘煉に事業に

印連中、見援うは、此所分被隠誦を不設に用
所も、必するを、支は、別紙は、協、通、以、解、
空室、早、他、活、お、第、と、振、は、家、在、活、の、経、費、減、出、
共、添、以、証、事、致、在、也、

明治六年二月十日

第一大学区

醫學学校

本省

法中

功 押

書面中、立、之、趣、を、今、一、應、廣、く、入、札、之、上、に、
不、同、出、事、

四月廿日

文部	省印
----	----

東京大学

先般待條約相成候教師デニト氏来ル五月
第一日彼地發輒六月下旬迄ハ来朝可仕趣
然ル處同氏旅館之設無之殊ニ洋製之家屋
御貸渡之旨御條約相成趣過日以来百方搜
索仕候得共何分同氏旅館ニ相充候家屋無之
ニ付何卒至急同氏旅館所定相成来朝之節ニ
至リ不都合無之様仕度此段至急御評決相願
候也

明治六年四月十七日

醫學校

本省

御中

東京大学

書面申立之趣も御宛学校内におかれ
て来々建物修理ありて事務此中

四月廿日 文部

省印

功 押

長官

菅 儀 裁

別紙並内修理之費用に御座る分は御座る也

明治六年四月十日

近江市文之系町長 菅 儀 裁

東京大学

藥局修繕之系身再願

去月十日相願生而校藥局修繕之系身而廣之入
孔可改而指令相部所安所分至急之事且修之
減省之と云願候事候所ハ於此上之減方之修
及限申上之通達之向暑候所を修之之弊害之
空敷費ハ其系身不女何卒急速之ハ可相生
片攝仕被修候ハ其費調書圖ハ其相部外臣奉
願也

明治六年四月十日

醫術学校

本省

市中

東京大学

書面例之通合金成百抄之面以後も余は
既経不裁り為成の上清并此を呈せり

己月十九日

文部

省印

功 押

上野教師館修繕之儀有願

教師ホフコシ以て貸置置其館舎迄と損破
ニ及リ身修理差加且檢核等願其在公場所
調査と上精々減省仕付列紙工費調査、分
所係同所、早、既経お加は檢出付且又
建築教師プラウン氏居来元来り水、身、
水、下、満、多、甚、夕、健康ヲ害し其、
規、下、水、而、役、系、新、色、且、不、可、止、至、身、取、設、
方、法、ラ、固、色、工、費、調、査、其、水、添、以、既、事、既、也、
明治三十二年己月廿四日

第一大学

留学校

以中

萬民如之、而系之、名之、實之、中、外、之、心、之、分、以、速、決、
而、氣、化、中、也、

書面批紙金公於七山家所計為制之上
猪弄泥七色出市

四月廿九日

文部
省印

押 叩

工費取調書



東京大学

上野の森教師館修治の用

一 金五拾九圓五拾二銭五厘

四

金五圓五拾二銭

建具方

格の板戸半建市高板板戸建入

金五圓五拾二銭五厘

高付板戸

金五圓五拾二銭

金五圓五拾二銭

金五圓五拾二銭

五拾板戸半建市高板板戸建入

金五圓五拾二銭

東京大学

三人

此後

此後

此後

此後

此後

此後

此後

金三

人足

此後

此後

此後

六人

出面

此後

此後

此後

此後

此後

此後

金三

此後

此後

此後

此後

此後

此後

に接ひぬ

板板書

之

三好

代治百に接ひぬ

に接ひぬ

板板書

之

三好

代治百に接ひぬ

に接ひぬ

板板書

之

三好

代治百に接ひぬ

代治百に接ひぬ

修治の事申上

今朝は庵中と在通今晩は出火と云生徒所寄宿
舎其焼失且消防しあむ打毀生固所を不中
昭示し多し多人救し食餌は云其場所を不中
一時も不可救固所を付至急能全可後中其外
係向輕要し云是云同利云云此は北匠法
庵中と在也

第一大学区

明治六年四月廿日

醫學學校

本省

志中

書面中之通書管帳課也任申付と案
此事一々合事

明治六年五月七日

文部
省印

功 押

上野教師館補給差建増之義

有再録

二月十八日以東度と相託在上野新教師館補給
建増共今以テ何等の事取付毛今之 上野教師館ヨリ
數度報告毛今之 様文來馬差置候こと又候旨有
り急之由當分相度及改再と事能付也

明治六年五月八日

醫學學校

本省

法中

東京大学

書面新規既在達之處を勿論在在懸程共
々後自費之處をあるは外建塔修程
未之を其校にありて入費ありて之を
之に事

押 切

五月八日

文部	省
部	印

生徒体操場不設之系府

領

壬申十月二十七日 視之既に内許分れ市に高夜生
徒体操場不設之系府に省政授票方設在不利
紙一通に之を在在經費に以て至急施設は府に之
図面は其係に在在經費に

明治六年十月十二日

第一大学区

醫學 学校

本省

小中

東京大学総合図書館

切 押

書面金百八枚或四枚後之改訂中より早
所裁成の上務算帳より取也

明治六年五月十七日

文部

省印

藥局他諸箇所取之金

申上

五月十日同爲之役某局他諸之金而文部省より寄
教附共より申出た座より方より同寄金或百五
拾二圓以迄或より以より日所定より一増速に採算
仕向所之某白所取申出た座より之諸箇面より取
ある座中より也

明治六年五月十日

文部省

省印

奉省

文部

而此經費之動支將之有昭明文圖書より降其標
此書は中

書面並同假借圖所部之類は重氏に
精しく入費省照之付事

功 押

明治六年五月十日

文部	省
部	印

改附之宗屋寶源之候存此等中より之系
由打合之類は必らず也

明治六年五月廿日

榮送局

醫術学校

由中

甲

當教えの雇教師シモレス氏先般長崎表に出立
致れ付テハ旧氏店館建築家プラウシ氏下ツル
海多々思ふに役より迄示さるゝ故曰氏より中
手と云ふ門内者より中手と云ふ故にふたつ役
プラウシ氏に全歸し迄示さるゝ故にふたつ役
モレス氏店館に系ハ故今もさるゝ曰氏に門内
衆の事ハ此所よりさるゝ故にふたつ役也

明治六年九月十日

第一万号区

醫用學校

建築局

修中

東京大学総合図書館

乙

元シモンス氏居任多仕此也後隔館ニ系舟の中
誠ニ一ノミ、障子知れ、古きふと抑多ニ病流
乃ニ期ニ多ク、いふ抑多病生徒、古き所ニ元
此見、此多ク仕此、此の回、此多、いふ也
明治六年四月五日

第一大学区

醫學学校

奉省

築造局

内中

東京大学

東京大学

押 加

脚氣生徒養生所ハ寒ヲ脱スル所ナラバ
えしモンス館ハ其位也

九月廿日

文部

省印

教師館新築ノ儀

先般舊校教師コツヒユス、ヒルゲントルフ、フシクミ
ニ名来朝し、御居候ニ係新築教師館一字ハヒル
ゲントルフ、えしモンス館ニテ増建シ今ハコツ
ヒユス、えりりみ館ハフシクトお定存在ナリ其
節えしモンス館増建シ今未タ完成ナリ其
止コツヒユス事ハヒルゲントルフト御居候
其後留學校建築部ブララン内閣ノ御上建
タルヨ日氏施設ニお元々適宜ニ建築ナリ、其
ニ任セえしモンス館増建シ今エ住居方御居
候ヒルゲントルフ日ハ元来博物學士ニテ来朝シ
来々教も生々勤植部諸君ノ集メ既ニ全館ニ満

東京大学

東京大学

浴池に隣接ニ一ウエトリ方居室ニテ所備受片次
才方コッヒユスル第ニ日氏旅館ノ内ニ宿受
日氏存在此處で前頭ノ荷物諸湯達モ同居
致趣純テハ新築教所館ノ近隣ノ地ヲ撰ニ一宇
ハ新築ヲ成ル匠毎ガ中出ル寫下詮議仕ル
建築家ブラウレン事隔絶ニ此ニ存在テハ
学校ニ宿院建築ニ臨ミ至リ現今園門ノハ事
適ニ建モノ用辨致成ニ純テハ前中ニ建通
コッヒユス旅館リレテ一字ハ新築お申ガ
急良再決お知也

明治六年四月廿日

才一大學区

醫學校

本省

の年

追テ日氏新書譯文お入の候也

書面コッヒユス所被ニ過シモニス館ヲ以テ充

ブラウレンニ過シモ申省中ニ宿院ノ令居候

事

五月廿七日

文部省印

省印

東京大学

東京大学

生徒養生所海傍にあり

富校寄寓舎にあり地卑湿二月例年脚氣二病に罹り生徒男女共今日病に生徒教員及び家系者古病多し是れ土地に濕乾に關し事有上野川川地内一時轉居方必なりといふ所あり高し陽所あり物あり所舊旧富山邸に因れり乙四拾坪程に建ち洋法に日所へ後中井養生所は富山邸に急に再決あり也

明治廿年七月七日

才一子

醫學學校

本省

東京大学

清平

形に通極秘ありし故にりく薬送りて終極保
万打会に事

功 押

明治五年六月日

省	文
印	部

過日生徒養生所より先頭部郎に内建家之拒後
件持備お然既この許方お事生室公を大重部郎
に召遣ふは方部郎に内前院に達時相備はる且
御事お病お然生徒退てお病お事生室公の許容お
事生上を至急より後中夜就てい通用つて所お
間々開闔ありし多し高夜少供し者一人を至急様
は後お事生室公の許方お然既也

明治五年六月十日

才一乃字区

醫 学 校

本省

清平

抄 押

洞之通

明治六年五月十日

文部省印

昨十日有郵置此生結養生所トシテ大至吉郎
内建家持防は、後箇所を分紙圖中ニ通シテ來
右方係至急ニ許シ方有、事分、所、再、之、右、輕、也
明治六年五月十日

第一工學區

醫學學校

本省

長中

書面申之趣也 於賞後裸亦不可改事

弘治七年三月十一日

文部
省印

元亨利貞

久ワク子ん居館下今般茲防フニク氏派後轉て
 波捷仍ラて不低し箇所既係系不類今之乃仕
 中據振武少しい多を駿河後名ヤ至能乃りてり用
 代價續中付能安又は令言不低く通る多し於
 於ての用を減しは振武より計りて其失以實際
 の據重しと云急遽既係系加多し波防既あり能
 也

明倫彙編
家範典
卷一百一十五

第一大學堂

醫藥學校

奉
省

あ中

送付図面之家に可憫中身未だ身よりうきと在

書面便修之儀去來送局にありて要分
いふ一二ありて中

功 押

明治六年三月廿日

文部
省 印

生徒寄附金修繕之費

死

先般洋室中と云は通当昔生徒寄附金修
後十分割修繕金一日若方彼より此に
あるは寄附金と云は分り分り校庭に
しるに到りて一紙記入するは目録と云ふは我
國の道徳内に古屋神経の由に極まり
生徒寄附金共と云ふは此に在るなり也

明治六年三月廿日

第一高等区

醫學学校

本省

東京大学

法中

方々而文修経より之を工費減省するに方々城内不
用しより而石伐り申す旨目録にて心ある方々上
月也

押 印

書面寄寓会修経に依りて修保に代りて其案
諸事にておる事

五月廿日

文部	省印
----	----

生徒諸生所へ職有る

元大聖寺即内建ふ油供し汝が月十二日少許より
上生徒諸生所へお用いし事御座りて生徒諸生門
後經口病しやの事とて在りて之れを校邊より
より後へ所より之れを又も右所より之れを後へ全
生徒諸生所へお用いし事御座りて之れを校邊より
極く極く之れを又も右所より之れを後へ全
生徒諸生所へお用いし事御座りて之れを校邊より

明治六年七月四日

才下子

醫學學校

少省

東京大学

市平

押 中

親之通

明治六年七月四日

文部省印

東京大学図書

上野文庫館管經之系

當二月末後、おれは上新報、以館使経達信之
系、大蔵省、以御令、未だ經費未だ支、於予
指細取調、為之、おれは、以達、予、以取調、以、列紙
之通、之、進、大蔵省、以、所、之、支、之、紙、
何卒、急、以、許、決、おれは、係、以、以、以、以、以、
而、以、係、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、

明治六年七月七日

東京大学

留学校

小省

東京大学

見
萬
大
一

4

書面管絃之演奏樂譜局ニ於テ所分
以テ之ヲ束

光緒二十七年七月

文部

省印

生德養生所不礙身取

元大和寺 即同生德養生所 沙門十言奉因
四胃あまのね達家 沙門酒信 沙門移令あ偏
片雲 柳字 病く生 徒 於 弓く片の共 後 后 家
空く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く
こ 並 所 とも 後 家 定 額 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く 弓く
沙 弓 弓 弓 弓 弓 弓 弓 弓 弓 弓

少陵云年七月十日

弟 孝子

醫學校

率省

馬中

東
林
人
集

押 叩

少海五年七月十二日

文部

省印

生後身家甚他甚微結一箇身

經

當夜壽宴客之衆小園中按臨之破屋之什以之
修是不知會之勿偏之什以之異旨他日新葉亦
及同達之月想之姑息之修能之加勉之匠費之考
假之其用之克亞及費進之生徒情負加之先般火
災之言南舍之此生修禁烟室照之而亦其其
尖害之砂之高教屬之不復以分發之攝之什
中中票而仕先以梅因之長夜之字修候以爲
近中成仕以之其光臨之射入票外不方其乃
之整列以之密接仕能其僅之七七換名之過
中之禁烟室此年乃亦施設之園所之什以之
秋新



規程科生入金とる許り又其金會夜保
る事又其金會保る事況而久分之上お應に傷
修繕の事あり其金保る事あり其金保る事
明治六年七月一日

第一大学区

高等學校

小省

東京

而以下文教衛生從禁烟室等あり其概略圖
存り定めて該圖を二ツヤ上在事

押

中

書面寄附金其他修繕之沙榮送るに於いて
以て其條指中より行金事

明治六年八月二日

文部省
印

但生徒禁烟室、在室不都合之件省戒室下
亦相違其指案何レに於て設け或臣細可
申出事

東京大学
総合図書館
蔵書印

新入生徒寄寓舎修理の旨

願

先般お礼を申した通り秋期新規入舎生徒の寄寓舎の
甚々なる欠陥は別紙図面を通而來金で補
修する所が甚だしく多し

明治三十八年九月九日

第一大学区

醫學校

本省

清中

東京大学

東京大学総合図書館蔵

書面所記之状要道所分以市一其宗流
申之其名はる

山後亭子八月三日

文 部
省 印

押 切

其夜山後教師デニツ氏居館之儀宛前中互
通旧常山郎書流候様至加一云其海案外候
相違と片事

山後亭子八月十日

文 部
省

文 部
省 印

医学校

東京大学

東
方
大
學

舊獨乙學教場官舍祔儲之儀有

昨十曾山庵中上法今般物乙學教場法為之度也
付名之為所出ルハ氏高校へ請ふ片上と曰く之可
實彼報答せし基より其片簡是止曰く一の貸
渡ありて所に寓た其儘高校への貸渡ありて且
曰所へ渡回より為場生徒寄るべきに因より一國子より
之片の一集より後へ持歸す作片渡り候へ國白
お所法匠お教也

明倫彙編
家範典
卷一百一十五

第一才子

醫學校

東坡先生集

本省

清中

書面之趣進方及沙江氏中

明治五年八月廿日

文部省書
出仕正五位
甲不三郎印

東舎管儀之長有頼

先般修繕相和片東舎應接所食堂等ノ爲ニ
最前見ノ石中上片海ノ邊敷々々モ椅子食盤
等ノ爲時ノ損破ヲ出シ仰々口江益々屬々
然ルモ今般而所共拭板流チ成片損仕度且又同
舎邊大階子ニ挺立過日由見分ニ通因ニ爲被
ニ被ハ分ハ其間是又一集以經營ヲ成度此等
相頼片也

明治五年八月二十四日

第一大学区醫學校學長江

文部省書出仕長谷川 泰

五位田中石三郎殿

東京大學

而以本文式板浪仕振工費其少兩為各序ヨリ
精出片ノ角ハ廻一申上片事

書面至金登模子式板浪仕振工費其少兩為各序ヨリ
分設其系浪仕振工費其少兩為各序ヨリ

明治六年八月十日

文部省印

化学教場上野教師館共管経ノ事

當校化学教場ニ系ノ在事使臨ニ私室ヲ併セ
物付其用ニ充テ其費ハ今大率ニ流通不充テ其
ニ差難思ハ別紙圖ハ此ニ通在事壁ヲ拂
窓ヲ穿テ夜將又上野教場教場ニモ入テ其
今般コツヒテ其費波多テ其間内損破ノ箇所
アリ且外國ノ柵ヲ破不修不置テ其別紙ノ通
ニ系経管ニ成テ其経管ニ成テ其経管ニ成テ

明治六年八月十日

第一大学区

醫學校

東京大学

本省

法中

追うに用ひ紙と通す紙といふことなり也

書面金銀百両後日二枚を以て目的と爲し
猶ほ省略を候得る所なりと云ふ事

明治七年八月三日 五位田中不二麿

下

教師コツフユス居館新築之爲

因

當校教師コツフユス氏居館修繕之儀が既に
日所迄先般に済み用他が成公園に不没と爲る
と曰氏居館不日他日新築と爲るは候
而も又助金も亦所収銀兩並に見込有る事
と及修繕の如く向何ヶ月迄も必後修
る事なりと云ふ事と曰氏自費園丁等
は此修繕子と有る事と謂限額に相
同なり也

明治七年九月十日

第一高等区醫術学校

文部省高等部仕長谷川 泰

文部省四等在田中不二齋殿

文部省三等在田中不二齋殿

書而後附期限之修建築備確定之可相達左事

明治三十九年九月十一日 正五位田中不二齋 印

教諭館修繕之費有再取

昨甘言お致在而後教諭館風損修繕之箇所取
細計紙分紙一通之件或之修向之常之或之修集
少妨法致之由甚多を文中に記し且些少別處修繕也
多之修繕一集修繕の費用加ふ事成公院再之互
相修繕也

明治三十九年九月二十日

第一工學区區學校

文部省六等在長谷川 泰

文部省三等在田中不二齋殿

書面修繕等之儀に破れ分る額金ヲ以
費分致し其他破損ノ分を祠主ノ上ノ入費
取調可竊出事

明治六年九月廿日 正五位甲子石二磨 下

寄宿舍贈所管經手帳

南校寄宿舍贈所之儀而五月中燒失致し其
右之田用及分欠し箇所ノ月元形ノ管經手帳
ノ其内ノ五箇上野ノ建築ノ上ニ後附う其
主心物ノ家ノ移り貼息ノ所分附し其又
其其内ノ一返ノ物所主棟石建經手帳送
主一同經手帳有明々長經手帳方波し其
煩更書分記し後し其書去月二十日大風
ノ其右後附所ノ風雨致し其書四万九千
幣時ノ水倒し其書又後建修經手帳加
其助者致し其書又其後建修經手帳加
其其内ノ人等ノ其書又其後建修經手帳加

忠告を採りて設計方にて之を以て自ら書きたるに
見ゆるが紙は楕圓の形に入り札の中に入れられ
中に入らず其位を白くし其後冬期に之を所分
として置かれぬ也

明治六年十月四日

第一大学

醫學校校長より

文部省に書きたる長谷川 泰

文部省に書きたる中石三郎殿

此の取柄所收録し其後日人より受けたる人等
諸所寛く用ひて便用なり其用と不便とを以て

其旨を成文して呈送する所也

書面が百書田の目的に致し其後採り
合連し其等帳の形也

明治六年十月四日 正位田中石三郎

下

東
大
印
大
印
大
印

小僧定費増加

去年二月大雨に寺教師館破損之甚所而急に
修繕せしむるに費用萬に於て今と往者より多
く之を以て雨漏り候後庭雜草を除去し中土を
身以て是より止しおしむる及修理せしむる苦情
甚なり寧ろ全修せしむるに決し高きは此畢竟
因ありとて時自費に決す之を以て後を教所
館破損修繕定費全議後因に言ふに越り
乙卯年後々此費に決す此費に決す此費に決す
因に所費百五拾圓に決す此費に決す此費に決す
國人々因循に決す此費に決す此費に決す
此費に決す此費に決す此費に決す

東
大
印

明治六年十月二日

第一小字区醫局学校

文部省高等学官長谷門 表

文部省高等学官田中石三郎殿

書面九月廿二日自幕府而し如キハ帝有ノ天恩工化
者少ノ為メ全ク月々ノ額金増加ハ難ク聞
ル所事

但破格所ホノ多ク官給課打合早ク之支分下
付事

明治六年十月二日 正五位田中石三郎

文部省等
出仕正五位
田中石三郎印

教場模倣習之儀并願

高夜之義を元来学校に設て之を以て教場を他
共其台不都合有之を今又申上此迄之由は
以て道々上野一小新築之期ヲ待知ヤ角其用元
並に要理紀教場之あり医院に近傍之を以て
精煉技術之場所と病室に中央に之を以て何分係
方不致加へて之を生徒場與共々之を以て就而
之先般修理お申上表云第之此係而又修繕を
加日所へお移之申上又眼科教場之あり種々
之る支分又此分以て事務所板其場所に修理を
加之て其用元了了後も存在之に因りは概工費授
標云々之係此所中其也

明治六年十月十七日

第一大学区医学学校学長公府

文部省高等学長谷川 恭

文部省高等学長田中不二麿殿

前知事文部省高等学長田中不二麿殿
大試問前々付せん十九日午後二時同教場休業
付せん月内末付係此後時日逼迫するに補強を
付せん固より必要なりと存す可なり且て
交教場へ位置を教師等國語及び
此後為り洞窟なり是より多し
此後為り洞窟なり是より多し

願之故投票金百九拾七圓四拾九匁
致し將當後課打合追而為成ノ上
差出片事

明治六年十月十日 正五位田中不二麿

文部省高等

出仕正五位

田中不二麿印

明治六年十月廿七日

第一大學区医学校学長齋

文部省六等出仕長谷川 泰

文部省二等出仕田中名三磨殿

方々間因ストウフ之儀今般自費云々以達之旨
乞之々々其名お達在云々今般確之
前々々々河平就個々々彼名中出在是
又可係所分お達在事

願之通摘取調可貸渡矣事

但通書之必後口付可貸渡以

明治六年十月廿日

文部省等

出仕五五位

田中名三磨印

東京大学
文学部
国文学科
蔵

教師館既修築之旨有記

常校教師ホフマニ出ク貸座敷在館大校ニ及
其修築既修築加増名取出片寄先般有修
築之旨モ志皆自費ニ由有テ戸極小建
モ其修築有ホフマニ出ク多ク教師ノ事モ其
修築外校ホフマニ出ク修築モ其修築モ其修
築中人モ其修築モ其修築モ其修築モ其修
築修築モ其修築モ其修築モ其修築モ其修
築修築モ其修築モ其修築モ其修築モ其修

明治三十四年十月十七日

第一大学区区立学校長山田

文部省高等学局長谷川 泰

東京大学

文部省神田中石三磨殿

ふん印文少許のり上りし小経費用ト又做し左宮
額金トお拂うり此匠乃中上と云は事

同之通

明治六年十月十日

文部少輔

田中不二

磨之印

土藏補繕之義有歟

當校解剖局しそそ解剖字細微字は校解剖字し
製造物人歟之肯散人工し模塑強し一昨年以來乃
製造物解剖字細微字し製造物何し七教育上須
要しむ特し其價高き成ル而己之非入容易之難
得品物し多し防火し浸害急歸し修養授業し所
必要し所しそそ止教場し置列改置其次第しそ
一近火多しそそ止多速難移運高き必要し品
物一朝灰煙トすも亦必然しそそ止其夕然急
所在其強し強し解剖字所病修解剖字上至要
し製造物諸書其し付多し同局以修しそそ止土
藏し低圓面仕修し通補繕し加日所し教場し

併て高價の米品を常ニ市中に羅列設置此等
の物は度々市情由是同然なるを補理するに加相
米の採仕買取は既方終也

明治六年十一月廿六日

第一高等区医学校長心得

文部省六等区長官門 泰

文部少輔田中不二登殿

而以本文工費投票中付差を諸田所より高價
を以て此等米品は中一ノ上米也

願出之趣當繕課ニテ要分爲致候条猶可
打合渡事

明治六年十二月二日

文部少輔
田中不二
麻呂之印

東京大学

東京大学

寄宿舎修繕之象有記

常夜生徒寄宿舎之内如く是等天升吾及振彼等
等々時分強るる文片を自ら急補修するに加ふ事
凡修し仕振工費吾るる此れ其の象也

明治六年十二月九日

茅田大学区醫学校長心

文部省高等学局長谷川泰

文部少輔田中石二磨殿

東京大学

願之通

明治六年十二月廿七日

文部少輔

田中不二

麻呂之印

事務局醫院昇降口便橋之築

伺

當校教場之系を諸方に設置するに後を不致令
其官先般同くとして所にお移し教場医院分界を全
相立其仕事務局医院より昇降口を願はるる文
件等何事なる所なりと名所を設け事務上之費を多
投案中付片を引出し通に在りて修圖を以て其
るを係る所にお移す也

明治六年十二月廿七日

第一大学区医学校長

文部省高等学局長谷門 泰

文部少輔田中不二磨殿

願之趣於管籍課致處分候案付台可申候事

明治七年一月八日

文部少輔

田中不二

麻呂之印



